

## 令和6年度 第2回女性応援会議 議事録

日時 令和7年2月12日（水）  
午後1時30分～午後2時40分  
場所 富士宮市役所1階 111会議室

### <出席者>

委員 渡邊委員（委員長）、小田委員、古怒田委員、津田委員、徳田委員  
アドバイザー 白井教授  
事務局 渡邊市民部長、佐野市民交流課長、松本女性が輝くまちづくり推進室長、  
松永主査、平井  
NPO法人 母力向上委員会 小野様

### <次第>

- 1 開会
- 2 市民部長挨拶
- 3 議案  
令和6年度女性活躍事業の取り組みの評価について
- 4 報告案件  
令和6年度『家族』フォトコンテストについて
- 5 その他  
ふじのみやベビーステーション事業「C o 育てアシストプログラム」の市内事業所向  
け講座の体験について
- 6 閉会

### <議案内容>

#### 【委員長】

事務局から「令和6年度女性活躍推進事業の取り組み」について説明をお願いします。

○議案案件 令和6年度女性活躍事業の取り組みの評価について

#### 【事務局】

富士宮市の女性活躍推進事業であります、妊娠出産子育てシェアサポート及びふじのみやハハラッチ事業が、国から地域女性活躍推進交付金の交付を受けていることから、これらの事業に対し、評価ご意見をいただく必要があり、議案として挙げさせていただきました。これらの事業について、皆様からご意見をいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

お手元の資料1をご覧ください。

まず、事業1 妊娠出産子育てシェアサポート事業ですが、この事業の目的は、社会から孤独になりがちな母親たちが悩みや不安を解消し、自分と向き合う時間や、自分のスキルアップなどを考えたりすることにより、女性の社会参画や活躍を促進することを目的としています。

委託先は、NPO法人母力向上委員会様をお願いいたしました。事業実績は、まだ中間ではございますが、2月6日までの実績を報告いたします。

まず、(1)PLAYDAYですが、安心して子育てできる、自己と環境の整備を目的にした、親子の居場所(遊び場)の運営、また、妊娠・育児相談、座談会を全9回実施いたしました。参加人数は、全9回で217人でした。座談会や相談の内容は記載のとおりでございます。

PLAYDAYでは、居場所に遊びに来ただけのお母さんが、スタッフと話をすることで相談につながるなど、人とのつながりを通して不安を解消される方もいらっしゃいました。

次に、(2)FORMEDAYですが、女性の社会参加や活躍を促進するため、保護者が子連れでも自分のために時間を過ごせる居場所の提供や講座、また、主に仕事関係の相談対応を全6回実施いたしました。参加人数は、全6回で57人でした。座談会や相談の内容は記載のとおりです。

FOEMEDAYでは、フリースペースで自身の手仕事や文章作成のような仕事、勉学に励む方が多く、自分のための利用が多くみられたという報告があります。

PLAYDAYやFORMEDAYは、妊娠中や出産前後、乳幼児を子育て中の女性の相談先や居場所としての機能を持っており、利用者の70%以上が、「心身のゆとりが得られた」「育児の不安や悩みが軽減した」とアンケートで回答をいただいています。また、利用回数が増えるごとに満足度も上がっているとの報告を受けています。

次に、(3)TRYDAYですが、実社会での活躍の場を創出することを目的に、乳幼児を子育て中の親がやりたいこと、持っているスキルを活用する機会の提供を2月4日までの期間で4回開催し、講師デビューは4人、参加者は22人です。2月17日に5回目を開催予定となっております。講座内容は記載のとおりです。

TRYDAYでは講師をやりたいという申し込みが多く、そういったお試しの場を望んでいる様子が見られます。参加者アンケートの共有が講師側のモチベーションにつながり、過去の参加者の中では別の機会に講師として活躍している方もいらっしゃいます。

次に、(4)支援ネットワークの強化ですが、「富士宮市子育て未来LAB.」を活用し、相談内容によって情報提供や団体紹介を行うほか、各団体を紹介するパンフレットの配布、ハローワークとの女性の就労に関する相談機関としての情報共有と、チラシ等の配架を行いました。また、子育て支援に携わる人々が考える富士宮市の理想像を今年度は話し合う機会を設け、それを共有することで、それぞれの活動及びネットワークを通じて理想の子育て環境により近づけることを目的として、子育て支援者交流研修会を開催いたしました。

この富士宮子育て未来ミーティングには、17団体から32人の方に参加いただき、10年後に富士宮市の子育て環境がどうあったらよいか、そしてそれを目指すために自分たちは何ができるか、ということグループに分かれて話し合いました。

10年後の理想の子育て環境は、子育てを楽しむ余裕がある環境、親も子どもも誰もが認め合える環境など、様々でしたが、子育て支援者同士が顔を合わせ、それぞれが行っている事業内容等話すことで「様々な団体を知ることができた」「繋がりができた」など、前向きな感想を多くいただいております。

続きまして、事業2のハハラッチ事業です。こちらの事業は、お母さん目線で記事を公開し富士宮市のシティセールスを行うだけでなく、記事を書くことで、子育て中で孤独になりがちなお母さんが社会とつながり、社会への参加を深めることを目的とした事業です。こちらも、委託先は、NPO法人母力向上委員会様です。

事業実績ですが、まず、(1)9期生ライター養成を今年度も行いました。5人の申し込みがあり、全9回の講座を修了しました。養成講座の満足度は高く、積極的な参加者が多い印象でした。目下、記事作成の準備中と聞いております。

2月4日に長泉町へママラッチというハハラッチの先輩的な存在の母親ライターの皆さんがいらっしゃるのですが、その方達との交流も含めて取材に行きましたが、そのなかに9期生も参加しており、記事を作ってくれると思います。

次に、(2)テレビ静岡の運営する情報サイト *wasabee* (ワサビー) への投稿ですが、令和6年度投稿件数は5件でした。投稿内容は、子連れで行けるジビエ料理専門店やカフェなどになります。テレビ静岡のサイトのほうは、子連れで行けるお店の投稿のほうが掲載採用されやすいという面もあるので、お店の話が多くなってきているかと思えます。

次に、(3)ハハラッチサイトへの記事投稿ですが、令和6年度投稿件数は、68件です。投稿内容は、どんぐり拾いのベストスポット、ゆで落花生の簡単レシピ、災害時の母子支援講座の参加報告などです。身近にお母さんたちが興味を持って取材先を探して投稿しています。

次に、(4)3団体交流ですが、これは、当市と同様の事業を行っている、長泉町のママラッチと富士市のふじ応援部とのライター同士が、それぞれの取材方法や記事の構成の工夫などを情報共有する場として行っております。今年度は、第1回目を令和6年9月26日にZoomで開催し、第2回目を先ほどもお話ししましたが、2月4日に長泉町で開催しました。ライター達からは「記事の書き方の勉強になった」「他市町のライターと顔が見える交流により、ほかの団体のこと、それぞれの地域の良さなどがわかった」「モチベーションアップにつながった」などの発言が見られました。また、ハハラッチ事業は、市の広報紙である、広報ふじのみやにも毎月コラムを掲載し、サイト外でも市の広報活動を行っております。

事務局としては、妊娠出産子育てシェアサポート事業とハハラッチ事業、いずれもそれぞれの事業において助産師や保育士、Webライターなど、専門的な資格やスキルを持ったスタッフが相談や支援をすることで、孤独感や不安感を軽減し、社会とのつながりを作るきっかけを提供するなど、おおむね目的を達成していると考えます。皆様のご意見を願います。

**【委員長】**

事務局から説明がありましたが、このことについてご意見を伺いたと思います。

○意見内容

**【小田委員】**

P L A Y D A Yは、かなりの数をされているなど印象がある中で、開催曜日や時間帯は、ばらつきがあるのでしょうか。

**【事務局】**

基本的に、曜日は決まっています。時間帯も決まっています。午前10時～午後2時まで。その時間の中で、ずっといなければいけないというわけではなくて、自分の好きな、そこで行けそうな時間帯に行っていただくという形になります。

**【小田委員】**

自分は子育て経験がないので、お母さんの日常を体感ができないのですが、時間が固まっていると行けない人とかがいるのではないかと思うのですが、ある程度ばらつきを持たせたほうが参加者の属性も増えていくと思います。

**【津田委員】**

たくさんの事業が年間を通して開催されているとのことですが、例えば、お子さんは小さいけれど保育園などに預けて働いている方も参加できるような時間帯などはあるのでしょうか。

**【事務局】**

基本的に乳幼児を育てていらっしゃる方であれば、別にお子さんと一緒に行かなければならないというわけではないので。ただ、私共の委託事業としての妊娠出産子育てシェアサポート事業の中では、どうしてもお昼の時間帯の事業になっています。別件で、母力向上委員会様の独自事業としてL I N Eでの相談事業等をされていて、そちらのほうは、真夜中にL I N Eの相談があった場合は、即時性はなかなか難しいのですが、時間的にこのシェアサポート事業で行っている午前10時～午後2時の間の時間帯ではなくても、相談を受けることなどは独自にさせていただいております。

**【津田委員】**

今、育児休業を繰り上げて働きたいというお母さんもいらっしゃると思うので、そういう方(社会復帰している方)も参加できる曜日や時間帯に開催すると、もっと幅広い方が対象になると思います。

### 【委員長】

お二方が開催の日時、時間帯のお話をされていましたが、働いていない休暇中の女性の方が主に参加されていると思います。おそらく働いている時間帯に開催なので、就業されている方は参加できないと思います。企業側としては、人手確保するために休暇の日数を増やす、有給休暇を取りやすくする活動を社内でも実施しております。こういったもの（PLAYDAYやFORMEDAY、TRYDAY）も有給で行くことを会社として容認するなど温かい社風、休みやすい企業づくり、こういうもの（PLAYDAYやFORMEDAY、TRYDAY）にも参加したい人も積極的に場長が承認できるような社風を作ることができたらいいと感じました。弊社では、「スマイルワーク」という若い社員の意見を取り入れる取り組みをしています。その中で「休暇が欲しい」「有給休暇の日数が限られている」「家族のために使う」など自分のために使えるような休暇が欲しいということで、今年度の4月から初めて『バースデイ休暇』を作りました。有給日数とは別に、一日自分のために使うための休暇というものを作り始めたのですが、こういったもの（バースデイ休暇など）を活用してスキルアップの機会に参加できて、モチベーションアップとか豊かになればいいと感じました。企業としても協力できたらと思いました。

ハハラッチ事業のライターの情報発信の部分では、とても力になっていただいています。弊社で店舗も経営しているのですが、女性の発信力はすごくて、ハハラッチさんの投稿した記事で来店いただいたり、テレビ局の取材も母力向上委員会様からお繋ぎいただいて取材に来ていただいていたりと、とても大きな力になっていただいているところがあるので、日ごろからありがたいと思っております。こういった力（ハハラッチ事業）も広がってほしいなと思っております。

### 【徳田委員】

妊娠出産子育てシェアサポート事業についてです。育休中の方は、市役所に行く機会が多く情報を知ることができ、いろいろな媒体でお知らせしていただいているのでこういう（PLAYDAYやFORMEDAY、TRYDAY）のがあることは目についてらっしゃると思うのですが、社会復帰している方に、このような（PLAYDAYやFORMEDAY、TRYDAY）サポートをしていることが伝わっているのか。委員長の会社のように、会社のほうを休んでそのようなの（バースデイ休暇）を行っている環境ができていたとしてもそれがどこまで伝わっているのかが、気になります。一般市民の感覚として、素敵なことをやっていたのを私も知らなかったのがいけないなと思いました。

### 【事務局】

広報ふじのみや等には、載せていても、なかなか目に留まらないことも多いと思いますので、周知の方法はいろいろ検討したいと思います。2歳児検診や3歳児検診では、保健センターのほうでお配りしていただいているのですが、いらっしゃる方で目につくかというところもあると思うので。保育園、幼稚園でも配らせていただいています。そういったところをもう少し何か広げられることができるかどうか。保育園、幼稚園にまだ通わせられていないご家庭にどのような形で届けられるか検討をしたいと思います。

**【委員長】**

では、好意的なご意見が多かったことから、委員としての評価は、事務局と同様おおむね達成しているということで皆様よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では、「令和6年度女性活躍推進事業の取り組みの評価について」は以上で終了とさせていただきます。

次に、報告案件にうつります。

「令和6年度『家族』フォトコンテストについて」事務局から説明をお願いいたします。

○報告案件 令和6年度『家族』フォトコンテストについて

**【事務局】**

それでは、令和6年度に実施した『家族』フォトコンテストについて報告いたします。開催にあたり、今年度もご協力を賜り誠にありがとうございました。

お手元の資料2をご覧ください。

作品募集期間は、令和6年7月1日から9月1日まで。展示期間は、令和6年9月24日から10月3日までの10日間、市役所1階市民ホールにて行いました。表彰式は、令和6年10月4日に行いました。申し込み作品数は、135点でした。また、受賞作品については別紙のA3のとおりになります。ご覧ください。展示及び表彰式の様子は、お手元の報告書のとおりです。

フォトコンテストを実施し、様々な家族のかたちを写真で見ることで、撮影者の皆さんの家族に対する想いの温かさをあらためて感じました。また、表彰式では、赤ちゃんやお子さん、おじいちゃん、おばあちゃんなど、ご家族で出席される方が多く、事業の名前である『家族』フォトコンテストに相応しい和やかな雰囲気で行うことができました。

令和7年度も実施予定ですので、引き続きご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

報告は以上になります。

**【委員長】**

事務局から説明がありましたが、このことについてご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

ないようですので報告については以上となります。

全体を通してご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

では、ないようですので、白井先生より総括をいただきたいと思います。

○白井先生 総括

**【白井教授】**

1点目に、母力向上委員会様の推進事業（PLAYDAYやFORMEDAY、TRYDAY等）についてコメントいたします。旭ファクトリー様もハハラッチさんにお世話になっ

ているとおっしゃっていましたが、実は私自身も大学でハハラッチさんに取材と記事をお願いしていました。オリジナリティの目線があり、とても助かっています。皆様もご依頼されるとよいかと思います。

2点目に、防災の観点からコメントさせていただきます。母力向上委員会様は、静岡子育て防災ネットワークの副代表を務められていて、県内で積極的な取り組みをされています。このことが、ますます女性の活躍推進事業においても全面的に押し出されていければと思います。

静岡市などを拠点にしている『お産ラボ』というところがあります。お産ラボの防災部と実行委員会の方が合同で、2月10日、11日に静岡県立大学の体育館で「親子避難所 Camp」が開催されました。私自身は行けなかったのですが、様子をうかがうと、親子34組、総勢78人の参加者がいたとのこと。静岡県立大学の体育館に避難をすることを想定して、あるもので夕飯を作ったり、親子で寝たりして1泊2日過ごされたそうです。災害時は、親子が家庭にいるところで災害に遭うこともあるわけで、親の力としても防災のことを考えることは大事なことなので、防災の視点から、仲間づくりと地域の防災がセットになったらいいと思います。何か事業計画に含めるといいと思いました。予算立てなどもしっかりして、取り組んでいただけるといいと思った次第です。

3点目に、違う話題になりますが、先日見学に行ったところについてお話します。福岡県久留米市にある『じじっか』という活動があります。「実家より実家を目指す」「みんなで実家のような場所を作ろう」という思いから誕生したそうです。じじっかでは、金・土・日曜日を中心に皆で食事をしたりしていますが、平日の活動にまで広がっています。お母さんたちの中には、様々な特技を持っている方がいるので、例えば、ヒップホップを教える方がいるなど、みんなの力を発揮して居場所を作る活動をされています。

見学に行かせていただいたときに、さらに活動が進化していました。布の端切れを活用して糸状のものを作り、編んでバックを作ることをされていました。作った糸状のものを1mいくらかで自分たちのポイントや通貨のような仕組みで買い取り、寄付された洋服や靴など色々なものをそのポイントや通貨で持ち帰る活動をされていました。

あるとき、小学生のお子さんがいらっしゃったそうです。翌日が運動会で靴が必要とのことで、糸の織り方を教えてあげて、みんなで糸を編んでポイントをもらい、好きな靴を持って帰り、運動会でその靴を履き走ったということをお聞きしました。

事業として行うだけではなくて、居場所活動と交流、福祉的な機能がうまく連携していくような活動をされています。『じじっか』さんの取り組みを参考にさせていただきたいです。

推進事業としては、遠隔地などの積極的な取り組みを視察の予算なども確保していただき、新たな展開ができる下支えをしていただければと思います。

また、フォトコンテストでは、毎年素敵な事業になっていて、市役所だけでなく様々なところで展示できるといいと思いました。例えば、ベビーステーションの登録をされた施設やさぁどぶれいすSAN、市内の色々なところで見ていただけるように発展していただければいいと思いました。

**【委員長】**

白井先生、ありがとうございました。以上で本日の議事は終了となります。進行を事務局へお返しいたします。

○その他

**【事務局】**

渡邊委員長、議事の進行ありがとうございました。

続きまして、次第5その他についてですが、昨年7月の会議で説明させていただいた、ふじのみやベビーステーション事業「C○育てアシストプログラム」について、来年度、事業者向け講座の試行を検討しており、本日は委員の皆様にご体験いただき、ご意見を頂戴したく、NPO法人母力向上委員会の小野様にお越しいただきました。

まずは、事務局から事業の概略を説明させていただき、講座の体験へ移らせていただきます。

お手元の資料3をご覧ください。

まずは、このプログラムを委員の皆様にご体験していただく理由をご説明いたします。

このプログラムは、市の事業であるふじのみやベビーステーション事業の一環として、子育てを家庭だけで行うのではなく、地域全体で支えあって行っていく意識の醸成のため、母力向上委員会様発案のC○育てアシストプログラムを活用し、令和3年度から実施しております。

これまでは、これから子育てにかかわっていく世代になるであろう高校生や、孫育てに関わる高齢者向けに実施し、好評をいただいております。今年度から中学生向けの講座を始めました。

現在、企業や団体においても男性の育休や子育てについての取り組みをされているところが増えてきていますが、子育てをしている人の実情を職場の人たちが知ることによって、子育て中の同僚や部下だけでなく、まちなかで見かける親子に対する意識が少しでも変わることが期待し、事業所向け講座の開催を検討しております。

今回は委員の皆様にご体験いただくことで、どのようにすれば活用できるか、またはご感想など、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

まずは、わたくしからベビーステーション事業についてご説明させていただきます。その後、母力向上委員会の小野様からプログラムの内容の説明をさせていただきます。

○ふじのみやベビーステーション事業 概要の説明

**【事務局】**

ふじのみやベビーステーションは、平成28年度から富士宮市とNPO母力向上委員会が協働で実施している事業です。

母力向上委員会の発案で事業化し、「みんなで子育て みんなが仲間」をスローガンに、ハードとソフトの両方から子育てをサポートすることで子育ての負担を軽くし、笑顔で子育てができる環境づくりを進めています。

ハード面のサポートとしては、コンビニエンスストアと公共施設等のベビーステーションの登録があり、件数は現時点で80件になっております。

また、ソフト面のサポートとして、市内のベビーステーションの場所が検索できるサイトの公開などを行っているほか、市域全体で子育てをする意識を醸成することを目的として、C○育てアシストプログラムを導入しております。

C○育てアシストプログラムの開催実績は、資料にありますとおり、令和3年度から令和6年度までで430人に受講いただいております。

令和7年度も高校1校と中学校2校と実施に向けての協議をしておりますことから、事業所向けについては、試験的に行いたいと考えていることから1事業所ほどご協力いただけたところを探したいと考えております。

それでは、ここから母力向上委員会の小野様にお願いしたいと思います。

#### 【NPO母力向上委員会 小野様】

先ほど、ご説明頂いたとおり、ベビーステーション事業の中でサポーター養成講座という名称でC○育てアシストプログラムを活用して行っています。内容としては、中学校と高校のそれぞれの要望に合わせているので、1コマで行う場合は、50分。2コマで行う場合は、100分の授業でお届けしております。どちらも流れとしては変わらないです。最初に体験をしてもらいます。赤ちゃん人形を使って、ミルク作りをしたり、着替え、おむつ替えをしたりなど子育ての疑似体験をしていただいております。

次に、お配りしているワークブックを活用して、今の子育てをしているお母さんたちが1日のどんなタイムスケジュールで子育てしているのかを知る、子育ての多様性を知る、虐待件数が増えてきていることを知ってどのようなサポートをしていくのかを考えるなどのお話をさせていただいております。

最後にお配りしているワークシートを活用して、実際にこのような場面があったと想定して、どのような手助けができるのかを考えるワークをします。それに対しての答えもあります。子どもたちには、スーパー編を使用しています。今回は、市役所編をお配りしました。

普段は、中高生を対象に行っているのですが、市の委託事業外でも今年に入ってから、静岡県労働者福祉協議会にC○育てアシストプログラムをさせていただく機会がありました。参加者は、16人でした。20代で子育てがこれからの静岡県労働者福祉協議会の若者の会の方々、課長部長クラスの方々、退職者協会の方（70代の方）など年齢層が幅広い方々に参加していただきました。アンケートには、「子育てには社会の応援が大事だと痛感した」「子育ては何に困って、何を手助けすればいいのか理解できた」「育休前の社員へのプログラム、男性の育休などにも役に立つと感じた」「全従業員に対して有効に感じた」などの回答をいただいております。一般の方々にもC○育てアシストプログラムをする意義を実感することができて自分たちもよかったです。

別の事業になりますが、県からの委託事業で、『家事シェア出前講座』を令和4年度、令和5年度にさせていただきました。内容は違うプログラムですが、目的は、C○育てアシストプログラムと同様です。各企業に行き、社員向けに家事をシェアすること、女性も男性も家事をするのが当たり前になっていることを伝える講座になっています。

Ｃ○育てアシストプログラムを来年度以降、会社の中でさせていただくことは、色々なやり方があると思うので、今回の体験をとおして、どのように取り入れることができるのか等を考えるきっかけになればと思っております。

- 体験 ミルク作り、着替え、赤ちゃんの人形を抱っこして荷物を持ち歩いてみる  
(2人1グループになり、指示書に従って体験する。)

**【事務局】**

短い時間でしたが、体験を経てのご意見やご感想を伺いたいと思います。お願いします。

- 体験後の委員の皆様のご感想

**【津田委員】**

赤ちゃんの人形を使っての体験は、小学校でも各学年で取り入れてあります。助産師の方など講師に来ていただき、こどもたちに命の大切さなどを考える機会を作っています。こどもたちだけでなく大人や高齢者にもいいと思います。どの世代にも伝わる。子育ては大変だけど、意義があることではないかと思いました。

**【古怒田委員】**

実際に体験ができること、アイスブレイクを含めてできることはいいと思います。座学だけでは、手触り感がないので、よかったです。

**【徳田委員】**

ワークシートは、新入社員研修などにも活用したいです。お子さん連れのお客様がお見えになったときに、お客様に寄り添う接客にもつながると思うので取り入れたいです。

**【小田委員】**

体験をするということは、これからの将来の勉強にもなるし、子育てをされている方に何をしたら手助けになるのか学ぶ機会だと思うので、大切だと思いました。

**【委員長】**

20分の体験時間がコンパクトでよかったです。時間が限られている中でも、子育ての負担が分かり、ゲーム感覚で楽しむことができました。社内でも取り入れやすいと思いました。体験をすることにより、子育て未経験の方や管理職が社員の中で子育てをしている女性の負担の理解がより深まり、心のケアもできると思いました。

**【白井教授】**

社員研修などで行うとき、ロールプレイを取り入れるといいと思います。声のかけ方だけでなく「ネガティブな声かけ」を事例として入れるといい。例えば「冬なのに靴下を履いていないなんて」「危ないな」など。ネガティブなサポートはどのようなことがあるか尋ねる

のもいいと思います。ペアでするときは、一人がこどものお世話をする。もう一人が、それを助けたいと思っているけれど、ネガティブサポートになっている事例を考える。といいと思います。そして、ネガティブサポートをポジティブサポートに変えて、よりよい関わり方をすることをするとさらにいいと思います。

こどものお世話を体験するだけでなく、周りの関わり方もロールプレイの中に入れるとより幅が広がると思いました。

こどもが痙攣を起して泣いているときの音声を流してみるとより臨場感溢れる体験ができると思います。

#### 【事務局】

子育て世代に対して、優しい姿勢やみんなで子育てをしようという気持ちを持ち、行動していただける市民の皆様を増やしたいと考えております。ぜひ、講座の実施についてご検討いただけますと幸いです。

本日のご意見の中で、『家事シェア』のお話がありましたが、来年度の女性活躍推進事業の中で、今年の12月に家事シェア研究家の三木智有様を講師に迎え、家族での家事シェアの仕方などの講演を企画しております。また、日が近くなりましたら、皆様に情報をお知らせいたします。興味のある方がいらっしゃいましたら、参加いただけると幸いです。

以上で、令和6年度第2回女性応援会議を閉会させていただきます。